

科目名	現代中国政治論特殊研究	担当者	ヤマモト タダシ 山本 忠士	期間	通年	単位数	4
-----	-------------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>現代中国の政治プロセスと国家・党・軍隊の制度及び政治社会を中心に研究する。1949年の建国から60年の前半は、大躍進、文化大革命にみる毛沢東型の政治プロセスであった。後半の30年は鄧小平主導による改革開放政策が国を導いた。改革開放はそれまでの路線を離脱した脱社会主義とも言い得る政策転換であり、この改革開放の30年でGDPは15倍に、一人当たり国民所得は12倍になり、世界の大国としての地歩を強固なものにしてきた。現在は、鄧小平の後継者である江沢民、胡錦濤の推進した資本主義への道が進められて習近平と続いてきた。特に、毛沢東と鄧小平という二人の指導者の足跡を通して現在に至る現代中国を多面的に理解する。</p>		
到達目標	<p>現代中国は、社会主義国、発展途上国、伝統という三つの顔があり、経済力、軍事力、政治力を駆使しながら状況に応じて「巨大国」としてそれを使い分けたたかさを持っている。特に、近年は領土問題などをめぐる対立もあり、国民の相互認識もかつてないほどに悪化してきている。われわれは、長い交流の歴史を踏まえ、日中間の歴史認識問題、尖閣列島問題等に関する知見を深め、望ましい両国の関係について各自の日中観を養う。</p>		
学修方法	<p>レポート課題の作成に際しては、テキストや参考図書等を参照するとともに、図書館等で中国関係の論文、新聞、雑誌等を検索し、論点を整理して自分なりの視点を大切にまとめる。レポートの作成に際しては、担当教員と質疑をする。</p>		
スケジュール	<p>課題レポートは、まず草案を提出し、その後に最終レポートを提出する2段階方式とする。</p> <p>前期（教材1）：課題レポート（1）の草稿提出は7月末日、課題レポート（2）の草稿は8月末日を目途に提出する。レポートの作成に際しては、必要に応じて担当教員との質問、疑問等をメール等で打ち合わせる。課題（1）、課題（2）の最終稿は、9月中旬までに提出する。</p> <p>後期（教材2）：課題レポート（1）の草稿は11月中旬、課題（2）は12月中旬までに提出する。質問、疑問等があれば、メール等で打ち合わせる。最終稿は2018年1月課題提出締切日までに提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	<p>1. レポートとしての構成が整い、誤字脱字のないこと</p> <p>2. 課題の内容を正確に理解し、レポート内容が論理的で説得力があるかどうか。</p> <p>3. 考え方に独自性があるかどうか。</p>
	平常評価	20%	平常時のメール等でのやり取りの内容を評価。
履修者への要望	<p>1. 通信制大学院は、相互の顔が見えないところがあるので、受講生の確定した時点で、コミュニケーション方法について相談する。</p> <p>2. 個別的に地方から上京された折でも、連絡があれば、懇親の機会を設けたい。</p> <p>3. 課題レポートは、提出期日を厳守する。</p> <p>4. できたら中国語の資料も参照する。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 毛里和子著 教材名： 『現代中国政治』（名古屋大学出版会 2012年） ISBN:978-4-81-580700-9 2,800円+税
	現代中国の政治プロセスと国家・党・軍隊の制度及び政治社会を中心に研究する。 1) 現代中国の60年政治プロセスについて—毛沢東時代の政治プロセス、鄧小平時代の政治プロセス、ポスト鄧小平時代（江沢民、胡錦濤）の政治プロセス 2) 中国の国家・党・軍隊について—国家の制度とその機能、党、国家・軍三位一体の中の共産党政治的軍隊—人民解放軍、党と国家の政策形成のメカニズム 3) 変わる中国、変わらない中国—大変身する共産党、陳情の政治学、比較の中の中国政治、中国モデルをめぐって
参考図書	①リチャード・マグレガー著、小谷まさ代訳『中国共産党—支配者たちの秘密の世界』（草思社2011年）ISBN:978-4-7942-1826-1 2,300円+税
履修上のポイント	新中国建国の揺籃期における毛沢東時代の政治プロセスさらに毛沢東時代と一線を画した鄧小平の改革開放の政治プロセス、江沢民以降の政治プロセス等、国家・党・軍隊という三位一体となった中国統治システムの特徴を把握すること。
レポート課題 1	毛沢東と鄧小平の政治プロセスの特徴について論述せよ <b>留意点</b> ：毛沢東型社会主義—大躍進、文化大革命の意図と結果。鄧小平と改革開放政策とその後の中国の脱社会主義から資本主義への道。特に両者のリーダーシップ、目指す方向の相違点、同一点について留意する。
レポート課題 2	「中国政治制度の中の共産党について」 <b>留意点</b> ：党の指導性、党の機構と構成メンバー、党の政策決定メカニズム、党と国家の関係に留意。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： ワン・ジョン著、伊藤真訳 教材名： 『中国の歴史認識はどう作られたか』（草思社 2014年） ISBN:978-4-49-221216-5 2,600円+税
	本書は、二つの疑問点に注目する。第一に中国共産党の指導者たちは、歴史とその記憶をどのように利用して国民的アイデンティティを構築し直し、冷戦後も中国を支配し続けるための正当性を確保してきたか。第二にそうした国民的なアイデンティティの再構築が、中国の政治的な変容と対外的な振る舞いにどのような影響を与えて来たか、である。 著者は、「歴史」と「歴史的記憶」の違いを確りと理解することを強調する。歴史とは一歩引いた批判的な視点から過去を再構築したものであり、歴史的記憶（集合的な記憶）は特定の集団によって共有された過去の歴史的出来事の思い出や説明である、という。
参考図書	①加々美光行編『中国内外政治と相互依存』（日本評論社、2008年）ISBN:978-4-535-04841-6 4200円+税 ②国分良成編『中国は、いま』（岩波書店、2013年）ISBN:978-4-00-431297-0 820円+税
履修上のポイント	この100年の間に中国社会の郭さ・不平等克服のためにどのような取り組みがあったのか。教育大衆化の夢、学歴社会の誕生、改革開放政策は中国の格差を克服にどのような影響を与えたのか。これまでの研究を踏まえて中国の将来について各自のシナリオを描いてみる。
レポート課題 1	「中国の歴史認識について論述せよ」 <b>留意点</b> ：中国は1800年代半ばから1900年半ばを「恥辱の1世紀」ととらえているが、近代中国の歴史と現代中国の「神話」と「トラウマ」を核とする「歴史的記憶」は国民に圧倒的な影響力を与えている。この現実をふまえ、日本はどう対応したらよいか、を考える。
レポート課題 2	「中国政治の、今後100年の可能性について論述せよ」 <b>留意点</b> ：これまでの中国共産党統治の成功と失敗を参考にして、中国の今後100年について、自分なりの未来予測をする。